むくげ通信 322 号 2024．1．28

四柱推命・駅馬煞（ヨンマッサル）について

山根 俊郎

1．ゲストの中野葉子さん

去年 12 月 19 日（火）むくげの会のゲストとして中野葉子（なかの ようこ）さんが来られて韓国語について興味深いお話をしていただきました。

中野葉子さんは、1962 年生まれ。埼玉大学で中国文化を学ばれ、１年間中国に語学留学されて、大阪府立高校で日本語を教えられて、2011 年から３年間夫の転勤によりソウルに居住されて延世大学韓国語学堂にも通われました。

2021 年２月『韓観再発見』（工房草土社）、2022 年２月『韓国語再発見－発音・文法編－』（工房草土社）を出版されました。

今回は、2023 年９月 30 日に出版された『韓国語再発見－語彙編－』（工房草土社）定価 1,000 円（税込）に載せられた面白い単語を紹介していただきました。

２．駅馬煞（ヨンマッサル）

『韓国語再発見－語彙編－』P54-P55 に記述している「駅馬煞」（ヨンマッサル・역마살）という言葉を紹介された。（以下に要約します）

漢字で書いても意味が分からない代表格が「駅馬煞」（ヨンマッサル）です。

最後の「煞」は、「殺」の異体字であり、韓国語の辞書には「（人や物を害する）妖気、邪気、（悪霊の）たたり」などと出ています。

最初に知ったのは、韓国人から「あなたはヨンマッサルがありますね？」と言われた。

「あなたのように、あっちこっち引っ越ししてひとつの場所に落ち着いて暮らすことのできない人のことです」とのこと。

新聞記事「駅馬煞の現在的解釈」の話。韓国人は誰かから、あなたには역마살が入っていると言われると、心配になるそうです。

イメージとしては、引っ越しがやたら多い、職を転々とする、起業してもなかなかうまくいかず、会う度に名刺が違うような人だと。私もあっちこっちに住んでいるので、言われたのですね。（中略）

ではその駅馬が、たたりや厄運といった悪い意味の言葉となぜ結びついたのか。

記事によると、それは陰陽学によるものだそうです。陰陽学では、駅馬のようにあちこち奔走し移動しながら生きる運命を역마살と呼んだそうです。

また記事では、역마살が悪いイメージを持つ歴史的背景として、農村からの夜逃げは盗み、極貧など止むに止まれぬ事情で行われ、二度と故郷に帰れないという悲しさがあり、また、外部からの侵略、支配、戦争などによって、故郷を離れざるを得なかったという、つらく苦しい記憶があるからではないかと述べていました。

そして、今は通信手段や交通手段の発達したグローバルな時代なので、世界中を駆け巡り活躍するのは、よいことでもある。

역마살という言葉を前向きにとらえよう、と新聞記事は、まとめていました。

３．十二神煞（シビシンサル）

私なりに「駅馬煞」（ヨンマッサル・역마살〔영마살〕）について調べてみました。

生年月日から運命を占う四柱推命に十二神煞（シビシンサル・십이신살）というジャンルがあります。

十二神煞とは十干と十二支を基準にそれぞれの四柱推命に及ぼす影響を推論するのに利用される強力な明理学の道具です。

韓国の「マイテンプル符籍研究所」サイトには、十二神煞の 12 ケの煞（サル）が紹介されています。３項目に「煞」字。９項目に「殺」字を使っていますが、区別はないようです。

１桃花煞、２華蓋煞、３亡身煞、４駅馬殺、５地殺、６攀鞍殺、７將星殺、８六害殺、９天殺、10 月殺、11 災殺、12 劫殺

「十二神煞の解説」（要約）

１桃花煞（トファサル・도화살）

別名、慾敗殺（ヨクペサル・욕패살）0r 咸池殺（ハムチサル・함지살）0r、年殺（ヨンサル・연살）とも呼ばれます。桃花煞があれば男には女たちが集まって、女には男たちが集まる性向が濃いです。

男女の区別なく、桃花煞にはまると過度の性欲により災いに会う良くない殺（サル）です。

２華蓋煞、(ファゲサル・화개살)

華蓋煞は、墓、倉庫、貯蔵庫などを表現し、万物を収穫して倉庫に保管する意味です。

華蓋煞は再生を意味するため、離れた財物を探さなければならないオットゥギ（오뚜기・七転八起の人形）のような人生を送る四柱です。

３亡身煞、(マンシンサル・망신살)

亡身煞は明理学に由来するもので亡身の身であり、家の財産すべて失い、身を滅ぼすという敗家亡身を意味します。

４駅馬殺（ヨンマッサル・역마살)

駅馬とは一ヶ所に留まることができず、ずっと外に出回るようになる意味でどんなことにも積極的に取り組み、活動することを示します。

特に遠い距離に出る時に駅馬殺を確認するのは故郷を去った後に帰れない可能性があるからです。

駅馬が吉神として作用すると飛躍的な発展を遂げ、物事が順調で財物を貯めることができるが、凶神として作用すると風波に出会い安定せず、一生他郷を歩き回りながら苦しい生活を送るようになります。

地支（生年月日時の十二支）の日支に寅、巳、申、亥があれば、駅馬殺がある。

５地殺（チサル・지살）

地殺は土地の災いにより一ヶ所に留まることができず、頻繁に移動するようになって旅先の生活をする。駅馬に見えるが、地殺がどう作用するかによって吉神になることもあれば、凶殺になることもあります。

６攀鞍殺（パンアンサル・반안살）

高い馬鞍の上に座るように名誉と職位の高い地位に上がるという意味。

攀鞍殺がある人は名誉、地位と富の中で何不足なく一生心配なく生きていけます。

７將星殺（チャンソンサル・장성살）

軍隊を統率する将軍を指す言葉で念願の夢をかなえて権威と地位が上昇できる吉神です。

８六害殺（ユクヘサル・육해살）

自分をはじめ両親、兄弟、姉妹、妻子に困難が生じたり、大小の病気で長い間苦労させるなど６つの悪い害を意味する凶殺です。

９天殺（チョンサル・천살）

天殺は天災地変のことで、自分の努力や意図とは関係なく思いがけない厄難が訪れ、空を見ながら嘆くという殺（サル）です。

10 月殺(ウォルサル・월살) or 苦楚殺（コチョサル・고초살）

月殺は、漆黒の暗い夜に自分が進む道を照らしてくれる月が出たということを意味します。

自分が厳しい状況に置かれると反射的な利益が見られると解釈されます。

11 災殺（ジェサル・재살） or 囚獄殺（スオクサル・수옥살)

災殺は、天災により短命になる。横額されるなど凶殺です。

12 劫殺（コプサル・겁살）

劫殺は、強い力で外部から奪われるという意味で、災煞･歳煞と共に三殺（サムサル）を成し、十二神煞の中で最も強く働き、凶殺の中の凶殺であり大殺とも呼ばれます。

４．日本での「駅馬」・十二神煞

近所の書店で買った黒川兼弘著『四柱推命』（新星出版社）P139-P140　４「年支」「日支」で求める「吉凶神殺星」と意味、という項目で駅馬殺など十二神煞のことが書かれています。

◆「駅馬」旅行とか出張・移転など、人生の旅を意味する星で、この星のある人は、職業、住所などが安定しないようです。

命式に「天乙貴人」があれば、「天馬貴神」と変じて社会的にどんどん上がり詰めていき地位、名誉、富に恵まれ、最高によい運勢となります。

駅馬が多いと生涯を通じて忙しく動き回ることになります。父親との縁が薄く、生死別することになります。

中年まで苦労しますが、中年以降は開運して運がよくなります。同じ柱に「空亡」がある場合、寂しく不安定な運勢となります。

以下、「劫殺」、「咸池」、「囚獄」、「亡身」、「血刃」、「隔角」など計７ケの「吉凶神殺星」が説明されています。　（終）